

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り再利用することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット:

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2021 金 杭



民主主義という悪の閥

—— 他者なき民主主義とそのディレンマ

KIM Hang(Yonsei University)

政治における悪

- 政治とは?: 規則を作り上げるか、規則を撤廃するか、という共同の実践
 - => 未決定の領域における／向かう言表や行為、つねにあらかじめ混沌の場に回帰
 - => 再帰的な遂行性: 言表や行為の規範が遂行のなかで発見されねばならない
 - => その遂行性における悪とは? 政治の不活性化へと向かう「政治の悪」への問い

民主主義という悪の闘

- 近代の民主主義とは?: 人民の自己統治(理念)、代議制と多数決(方法)
 - => 市民(citizen)になってこそ人間(human)になる(ルソー)
 - => 普遍的な人間と限定的な市民の相克: 人間の資格? 理念と方法の相克?
 - => 市民あつての民主主義: 根源的な民主主義の自己背反
 - => 人間の資格化(市民化)によって政治を不活性化する危険が根源的に内在する
 - => 未決定の領域を消し去ることによって政治を法へと転換させる
 - => 悪を名指し排除しながら政治の遂行性を消去する「政治の悪」

1980、光州民主抗争、現代韓国民主主義運動の原点

https://www.youtube.com/watch?v=cvV_oiq0ec4

1987、6月抗争、民主主義運動の変曲点

<https://www.youtube.com/watch?v=LcKrL9i93ok>

1988、オリンピック、マクドナルド、海外旅行自由化

<https://www.youtube.com/watch?v=MvZHs3yY2BI>

1991、5月抗争、自由化と経済発展のなかでの民主主義運動

<https://www.youtube.com/watch?v=Me5pSpMPRY0>

2016、キャンドルデモ、直接民主主義による統治権力の弾劾

<https://www.youtube.com/watch?v=jKiprkYxtwA>

キム・ソジン 『開かれた社会とその敵』(1991)



キム・ソジン『開かれた社会とその敵』
Munhakdongne、2002年

1991年5月、ウルジロ(을지로) 白病院(백병원)

公安統治・民生破綻、盧泰愚政権退陣のための
第三次国民大会 (5.25)

当時大学生のカン・ギジョン死亡、「国民対策会議」結成
対策会議執行部と「メシツブ(밥풀떼기)」の間の口喧嘩

「民主化」の名の下での「旧秩序」の存続批判
— 何が古い秩序なのか?

1987年以降の民主主義とは?

「安楽への全体主義」と「グローバル内戦」の展開

警察当局：デモの現場と籠城場を転々としながら過激行為を繰り返した連中に対する
集中取り締まり発表

対策会議執行部：一部の過激集団は対策会議とは無関係であり、示威への世論を悪化
させるために警察関係機関によって買収された連中だと推測

しかしその次の日、対策会議執行部は態度を一変させ、

「彼らはわが社会から疎外されてきた民衆の一部であり、自発的にデモに参加してきた
未組織の階層で、検察と警察は大勢の善良な市民と彼らを隔離し孤立させる目的の
集中取り締まりを即刻中断せよ」と発表

過激行為を繰り返した連中＝メシツブ、示威の現場で対策会議の態度に怒りを覚える

「示威隊の一部が俺らを指さしてサツに連れていかれたんだよ、あんたらは俺たちが
当局のスパイかなんかだと思ってるんだろう」

「公式的な立場とうちにしまってる立場と違うんだろうな、お偉い指導者さまだもんな」

不平と嫌味を繰り返すメシツブに対して執行部は次のように答える、

「民主化運動勢力は一般市民と、言うならば、水と魚の関係にあります。魚が水を離れて生きることができないように、われら民主勢力は大衆の支持なしに存立しえません。なのに自分たちと意見が合わないと言ってだれかれかまわず罵倒したり討論の場を冷やかしたりデモが終わったのに通りの車に石をなげたりして一般市民の日常に不便をかけたりすること、そして一緒に死んでしまおうなどと恐怖を掻き立てるなど、正直度が過ぎた場合が多かったじゃないですか。ある方は韓国銀行を焼き払おうなどととんでもないことを口走ったりしてましたね。」

「そんな過激で衝動的な発言は現在われらの闘争に何の役にも立ちません。我々の社会には二つの側面があります。肯定的なものと否定的なものがあって、反民主的な統治機構、悪法、不平等な制度などは否定的なものです。そうしたものは当然撤廃されねばなりません。例えば銀行などは違います。それは市民社会の固有の制度であり核心をなすものだからです。警察署を攻撃するのはまた違います。」

民主勢力・一般市民・大衆・日常・市民社会・制度...、ならばメシツブはどこに？

「大勢の善良な市民と彼ら」という区分もしくはカテゴリーは何を示しているのか？

民主主義の主体は、いつのまにか、「正常」を前提として「異質」を排除してるのでは？

カール・ポPPERをパラフレーズした「開かれた社会」とは、「敵」とはなにか？

1987年以降の韓国社会

1988年、ソウルオリンピック、海外旅行自由化、マクドナルド・KFCの開店

1987-89年、労働組合の合法化と労働者大闘争

1990年、住宅200万戸供給：全国民のマンション住民化
犯罪との戦争：正常な市民・日常・人間像が民主主義の中心に

1992年、テジ・ボーイズのデビュー：消費資本主義と大衆文化の全盛期

1994 - 95年、ソンス橋とサンブン百貨店の崩壊：浅薄な資本主義発展という現状

1995年、5.18特別法：民主化運動の正当性を国家が追認

1997年、IMF事態：経済発展の現住所とグローバルな規模の新自由主義

藤田省三『全体主義の時代経験』（1985）

「安楽への全体主義」という問題設定

今日の高度産業社会の精神的な基礎は？

嫌悪をかきたて苦痛をあたえるあらゆる経験を、いくら微細なものであれ、根本的に回避しようとする性向

現代人は嫌悪と苦痛が惹起される状況そのものを抹殺しようとする

嫌悪と苦痛をあたえるすべての事物と生命体が完全になくなった「滅菌空間」を想像

こうした精神的な性向は科学的な害虫撲滅から特定人種の抹殺に至るまで、全体主義の典型的なメンタリティー

安楽主義とは人間が嫌悪と苦痛を惹起するものをすべて抹殺できるという希望

安楽が日常生活の目標になるとき人間は精神的な安定感を喪失、なぜなら少しでも嫌悪と苦痛と汚染を経験するかもしれないという不安に毎日苛まれるから

カール・シュミット『政治的なものの概念』（1932）

「一つの国家が人類のなのもとで自らの政治的な敵と戦うことは人類の戦争ではなく、特定の国家が交戦国に対して普遍的な概念を占有しようとする試みである。つまり自らを普遍的な概念と同一化しようとする戦争なのだ。平和/正義/進歩/文明などを敵が口にすることができぬよう自らの手ににぎってそれを利用することに他ならない。」

「海賊」の系譜: 人類の敵、抹殺してもかまわない、すべき、非人間 => 非正常な存在

民主主義の主体を「人類」「国民・市民」だと規定することは「海賊」を前提にして可能
異質な存在を「非人間」として排除してはじめて「民主」を定義

グローバル内戦: 海賊を前提としながら抹殺することによって普遍的な正義を実現する
特定の国民を人類へとつなげながら他者への排除と暴力を無意識の
うちにすでにあらかじめ作動させるシステム

EX) 南原繁と戦後日本の民主主義

真の昭和維新の根本課題は、そうした日本精神そのものの革命、新たな国民精神の創造—それによるわが国民の性格転換であり、政治社会制度の変革にもまさせて、内的な知的・宗教的なる精神革命であると思う。かようにして国民に新たな精神的生命が注入されてこそ初めて自己の真の永遠性を語り、人類文化と平和に寄与すべき世界における自己の精神的使命を要請し得るであろう(南原繁『祖国を興すもの』東京大学新聞社出版部、1946年)

日本国家権威の最高の表現、日本国民統合の象徴としての天皇制は永久に維持されるでありましょうし、また維持されねばなりません。これはわが国の永い歴史において民族の結合を根 源において支え来たったものであって、君主と人民のおのおのの世代の交替と、君主主権・人民主権の対立とを超えて、君民一体の日本民族共同体そのものの不変の本質であります。外地異種族の離れ去った純粹日本に立ち帰った今、これをしも失うならば日本民族の歴史的個性と精神の独立は消滅するでありましょう(『祖国を興すもの』1946年)

「個人—日本人—人類」へと連なる民主主義の主体と理想

象徴天皇制はこの脈絡で日本民族の固有性ととも、普遍的な人類の理想を具体的な民族の次元において実現させうる精神的な使命を体現するもの

その「日本民族」は、しかし、「外地異種族」の排除を前提とする

その限りで戦後の民族再生のための革命は他者を前提とするとともに抹殺することで可能
象徴天皇制とはそうした排除を隠蔽するためにあたかも「固有で自足的な日本」がある
かのごとく粉飾する制度にほかならない

その意味で嫌韓やあらゆるヘイトは民主主義への侵害であると同時に、その根源的な条件でもある

民主主義の逆説もしくは二重拘束といかに向き合うべきか？

メシツブとは嫌悪を惹起する海賊のような存在

- => 安楽と内戦が1987年以降における民主主義の基礎になったという事実
- => フェミニズムを「普遍人権」という名分のもとで排撃するバックラッシュ
- => 難民に対するヘイトに現れる内戦と安楽の日常支配
- => マイノリティーとの共存を恒久的な差別へと導く多文化主義の逆説
- => 「マンション」に象徴される安楽への追求が他人・モノ・自然への態度を衛生執着へと
- => 能力主義(meritocracy)が支配する民主主義の暗い裏側
- => 果たしてメシツブどもの住処を韓国の民主主義は設けることができるのか？
- => 他者なき民主主義への傾向をいかに歯止めをかけうるのか？
- => 現在の日韓関係における諸問題をこうした観点からアプローチする必要
- => 民主主義は、それゆえ、一国レベルではな国家と国家の間でこそ問題化されるべき